

足立区新基本構想策定審議会 子ども専門部会 検討結果

子ども専門部会の課題

- 貧困の連鎖を断つためにも「子どもの貧困」を解決する取り組みが求められている**
 - ・子どもの貧困を解決するためには、社会や区全体の底上げが必要。
 - ・子ども自身が気にしている「貧困」という言葉を、構想・計画で用いて良いかどうか。
 - ・ひとり親家庭や低所得の外国人家庭など、子どもを取り巻く様々な状況に応じた支援や、学校に来たくても来られない子どもの現状把握及び支援が必要。
 - 若い世代が自立し、活躍できるように支えるための取り組みが求められている**
 - ・高校中退者やニート、フリーターが多い。（※ニート、フリーターは区別すべき。）
 - ・子どもたちがやる気を持てるよう、進学以外の多様な進路を伝える職業教育が重要。
 - ・「職人のまち」など、高校中退者も活躍できる基盤づくりが必要。
 - 多様化する保育ニーズに応えられるよう、保育の質や量の充実が求められている**
 - ・今後、保育ニーズはさらに多様化することが予想され、ニーズや地域性に合った保育の提供が必要。
 - ・多様化に対応するためには、公立・民間保育園の役割分担や保育士の確保が必要。
 - 学力の定着・向上のために、教育の質の向上や教育環境の充実が求められている**
 - ・区内にある大学を活かした、学力の定着支援に向けた取り組みが必要。
 - ・発達障がいへの支援や担い手が不足している。
 - ・すべての子どもに対し、レベルに応じた学力アップ及び学力定着の機会を作ることが必要。
 - 教師の過度な負担を減らし、子ども一人ひとりに向き合う時間を増やすことが求められている。**
 - ・部活動指導や課外交流のボランティアと連携し、教員の過度な負担を減らす事が必要。
 - ・教師以外の学校スタッフを充実し、家庭・地域全体で学校を支えていくことが必要。
 - 子どもが健やかに心豊かに育つための環境の充実が求められている**
 - ・従来の体験学習だけでなく、大人との交流する機会の充実が必要。
 - ・子どもがものづくりを見て育ったり、身近な場所で緑や土に触れながら育ったりする環境が重要。
 - ・既存の学校のみならず、フリースクールやチャレンジスクール、定時制高校等の多様な学び場を提供し、居場所をつくる必要がある。
 - ・中学教育の柱である部活動に、全ての子どもが取り組めるような体制づくりが必要。
 - 子どもに関わる様々な主体の連携が求められている**
 - ・子どもはまちの宝であり、さまざまな人が子育てや教育に関わる必要がある。
 - ・学校の空き教室等を活用した交流など、地域に開かれた学校づくりが必要。
 - ・福祉分野と教育分野との連携など、庁内の横断的な連携体制の構築が必要。
- =====
- ▼**くらし専門部会からの提案**
- ・高校を中退した人に対するケアや支援が必要。
 - ・高齢者と若い世代の関係づくり（交流や支えあい）が必要。
 - ・道徳やマナーの向上が必要。

区民あだちサロン及び中高生ワークショップの課題

- 【**子どもの教育**】・学ぶことの楽しさを伝える必要がある。
 - ・特色ある学校づくりが必要。
 - ・小・中・高の連携が必要。
- 【**健全に育つ環境**】・中高生が集まる場所・居場所が少ない
 - ・子どもへの地域の目が届いていない。
- 【**子育て支援**】・子育て中の親同士の仲間づくりが必要。

将来像及び基本理念（案）

足立区の将来像（あるべき姿）

- **子どもの笑顔や夢を第一に考え、子どもにとっての最善を目指すまち**
足立で生まれ育つ子どものために、親をはじめ地域・学校・行政が、常に最善を尽くし、柔軟に行動するまちを目指します。
- **多様性や可能性を大切に、一人ひとりの子どもが主体的に生きる力を育むまち**
一人ひとりの子どもが持つ個性や可能性を適切に伸ばすため、子どもが育つ場の選択肢を増やし、多様な進路や夢・希望を実現できるまちを目指します。
- **親が安心・安定して子を育てられ、自らも育つことができるまち**
子育てに地域をはじめとする多くの人が関わり、子や親とつながることで、親が安心・安定していきいきと子育てを楽しみ、自らも成長できるようなまちを目指します。
- **地域やさまざまな人が密接に結びつき、子どもたちを支え育むまち**
親と親、子どもと年長者等、足立の子どもに関わる様々な主体が世代や所属に関わらず結びつき、子どもの成長に貢献できるまちを目指します。

将来像を設定した根本となる考え方（基本理念）

- 多様性を尊重する**
どのような環境に置かれた子どもでもチャレンジの機会があり、一人ひとりの可能性が認められ、自分らしく生きられることが重要です。そのためには、多様な子どものあり方や育ち方を尊重し、その個性を育む様々な支援や場づくりをしていくことが大切です。
- ネットワークを強化する**
地域の様々な主体との重層的な関わりを強化することで、子どもの可能性を引き出すことや、保護者に必要な協力を届ける効果が期待できます。そのために、近隣住民や自治会、さらには足立区を越えた「地域」とも広がりをもって密接に結びつき、つながりを強化していくことが必要です。
- 子どもの創造力や可能性を引き出す**
子どもが夢や希望を抱き、その実現に向け主体的にいきいきと生きていけるよう、子どもの潜在的な創造力や可能性を引き出すことが大切です。そのため、親、地域住民、教育関係者、行政が助け合い、一体感を持ってサポートしていくことが必要です。

区民あだちサロン及び中高生ワークショップの「足立区の将来像」

- 一人ひとりの生き方を認めてもらい、実現できるまち
- 全世代が学び続け、知恵を共有しあえるまち
- 地域で安心して子育てできるまち
- 子どもにやさしいまち
- 子どもの声が聞こえるまち